

会まで四か月ありました。月一回の世話を大へん好評でした。羽田澄子監督のお話

「らいてうと私」を語る

秋田の日本母親大会で

今年の日本母親大会は八月二日、三日の兩日、秋田で開催されました。五十五テーマの分科会のうち、今回初めて「自主企画」として「あなたもらいてう」の分科会が持たれ、米田佐代子さんが企画や助言を担当しました。活発な発言が続くながで、宮崎での映画上映会（二月八日）の報告が参加者を励ました。発言は宮崎の「平塚らいてうの生涯を見る会」呼びかけ人代表、成見幸子さん。

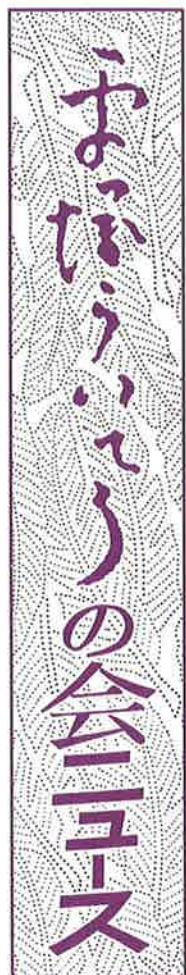
「上映会には千人参加を目標にしました。大学教授や医師、動物学者、児童文學者、詩人、母親運動やPTAの役員が呼びかけ人になり、手わけして百人の世話を集めて一人が十枚チケットを売れば千人はたやすいと計算しました。上映

人会はきまりきつた会議でなく楽しく意義あるものにしようと、毎回ミニ講演会をし、幅広い呼びかけ人自身に『らいてうと私』を語つてもらいました。これが

も計画、会報を発行して、映画の紹介と共に監督のプロフィールや電話インタビューを載せて宣伝に力を入れました。

当日は宮崎県立芸術劇場の千席のホールが満席。百三人の世話人の奮闘でチケットは千五百枚普及し、赤字を出さず、

上映運動成功的喜びと大きな感動を残して終了。ミニ講演会が面白かったので勉強会は続けようと話し合っています。やればできるという自信を得ました



発言する成見幸子さん（8月3日）

現代のらいてうたち

「らいてうは自立を求めて生きた女性だった」という米田さんの言葉に、「一人の人間として自立して生きたい」「らいてうをもつと知りたい」との発言が多く、人間らしく生きるために悩み、努力している女性たちに感動した一日でした。

各地での映画上映の成功や、らいてうをテーマにした学習会の広がりもうかがわれ、平和、くらし、子どもを守るためにエネルギーに活動する二十一世紀の「らいてうたち」の力強い歩みを知ることができました。

（玉川みさか）

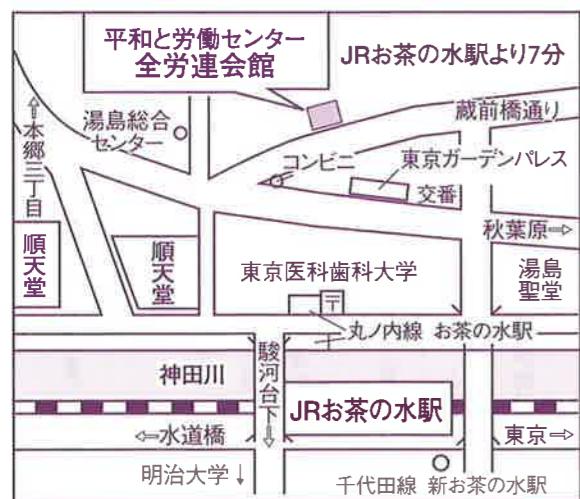
真田町でのフリートークのつどい

日時 10月25日（土）2時～4時
 会場 林業会館（真田町役場庁舎敷地内）
 挨拶 小林登美枝さん（平塚らいてうの会会長）
 報告 米田佐代子さん（平塚らいてうの会副会長）
 「らいてうの家」プロジェクト経過報告
 坂口久美子さん（真田平塚らいてうの会副会長）
 「真田平塚らいてうの会」の歩み
 司会 花岡 静枝さん（真田平塚らいてうの会会長）

東京からの参加者は東京10.52
 発一上田12.16着（あさま513号）
 で。建設予定地へ行きたい方は
 9.32発-11.00着（あさま507号）
 で。上田から真田町役場入口ま
 でバス600円、タクシー3000円
 位。
 申し込み 03（3401）6383
 平塚らいてうの会

一九一九年未に、らいてうの第四評論
 集『婦人と子供の権利』が出版され、数
 年前に復刻されました（久山社）。この
 本は、女性社会問題が主な内容で、子ど
 もの問題としては「日本に於ける女工問

三宅 良子さん
 （子ども権利全国センター）
 「子どもの権利とジェンダーの
 視点を重ねて」
 コーディネーター 米田佐代子さん
 ☆資料代 1000円（会員500円）



日時 11月24日（月・祝）1時30分開会
 会場 東京・全労連会館3F
 ☎ 03（5842）5610
 （JRお茶の水駅より7分）
 挨拶 小林登美枝さん（らいてうの会会長）
 お話 上 真一郎さん
 （児童文化・児童史研究家）
 「らいてうとその周辺の
 女性たちの子ども観」

題など少ないにもかかわらず、表題を
 『婦人と子供の権利』としたところに、
 らいてうの意図があるようです。
 らいてうの母性権利認識は、母性の担
 い手である女性の権利としてだけでなく
 母性の対象である子どもの権利のために
 こそ母性の権利があるという要素を含ん
 でいました。らいてうの母性主義思想は
 生涯を通じて生きており、戦後の母親運
 動につながりました。今回の講座では、
 らいてうの子ども観と現代の子どもの問
 題をテーマとしました。

五月の総会で「らいてうの家」（仮称）
 建設の提案が決まってから九月までに、
 「フリートークの会」や秋田の日本母親
 大会の自主企画「あなたもらいてう」「プ
 ロジェクトのための話し合い」（有志）
 などの場で、説明や話し合いを重ねてき
 ました。

ニュースでお知らせしたとおり、建設
 予定地は長野県真田町の四阿（あずま
 や）高原です。湿度は低いですが、
 冬は豪雪にうまれるこの地に「らいてう
 の家」を建てることができるのか？とい
 う疑問から話し合いは始まりました。
 けれども、「自然の中で癒される」と
 いうのはらいてうの生き方でもあつたの
 では？」「らいてうを読んでみたら、自
 分と同じような気がした。自分も落ち込
 むことがあるが、そんなときヒヨイと行
 ける場所になるといい。何とか不便でな
 く行けるようにならないか」などの意見

さらに「ここで自主企画のイベントや
 らいてうの会の事業（講座やコンサート
 など）をやつたら」「宿泊施設を作らな
 くても民宿やペンションがあるのだから
 ら、地元と提携すればいい」「信州そば
 や地酒を味わう会（らいてうはお酒が好
 きだった）をやれば」「円窓の部屋（映
 画に出てくる）をぜひ」「らいてうが建
 てた成城の家のミニチュアをおいたら」
 等々。「交通不便といつても、上田駅か
 ら真田町まではバスがある（昔平行き）
 のだから、そこからあづまや高原までの
 車があれば行ける」などの意見も。

第四回総会（五月二十四日）で理事が
 選出され、第一回理事会での互選で次
 のように新役員が決まりました。
 会長＝小林登美枝 副会長＝井上美代・
 折井美耶子・木村康子・中島邦・守谷武
 子・米田佐代子 事務局長＝小林明子
 理事＝井上美穂子・塩谷満枝・玉川みさ
 か・花岡静枝・山田繁子・吉岡真美・米
 山淳子 監事＝江川邑江・佐藤実喜子

フリートークで語られた夢

が出来、「い
 わゆる展示館
 ではなく、文
 字どおりらい

とはいっても、「やはりつくるからに
 は、ここにらいてうの資料保存と展示を
 しなくては意味がない」という意見には
 同意の声が。「冬は閉館するかもしれない
 いのに、資料保管はどうするの？」「警
 備システムを導入したら」「それにはお
 金がかかる」「いつそ真田町にだれか住
 みついて管理を考えたら？」などとさま
 ざまな「夢」が語り合われました。

十月には別紙通り現地を訪ねる旅を
 実施、真田町の方がたと交流をします。
 来春までにはみんなの意見を「かたち」
 にしたいと思います。ご意見をお待ちし
 ています。（米田佐代子）

（新役員）
 第四回総会（五月二十四日）で理事が
 選出され、第一回理事会での互選で次
 のように新役員が決まりました。

シリーズ

らいてうの周辺

新婦人協会に参加した歌姫

尹心惠

尹心惠は、一八九七年一月、平塚で生まれた。高等学校師範科を卒業後、教師をしていましたが、元来の聰明さと声楽の才能を認められ、後援者の推薦を得て一九一八年、国費留学生として東京音楽学校に入学した。

朝鮮では一九一〇年、日本の「韓国併合」により以前にもまして強引な内鮮一体化政策が推し進められ、朝鮮の内外で抗日民族運動が起こっていた。この時期留学中であった心惠は、声楽を活かした演劇活動で抗日民族運動の資金集めなどに参加した。祖国のため、同胞のため、「生涯朝鮮の心を詠じ、朝鮮の悲しみと朝鮮の新しい喜びを歌う」ため、民族音楽を歌つていく決心をする。

同じころ心惠は、新婦人協会の『女性同盟』七号に「朝鮮の婦人について」を寄稿し、朝鮮の儒教的文化

的基盤による男尊女卑と婚姻制度に疑問を投げかけた。日本や欧米による朝鮮女性に対する教育を批判し、「朝鮮人としての教育」がなされていないと指摘した。

新婦人協会の研究部学習会にも参加し、女子教育をもつと人間らしく改めなければならないことや、女性を排除している法律の改正などを活発に討議するらいて

うたちの姿に、日本の「新しい女」の姿を見た心惠は「朝鮮のために新しい女がたくさん出なくては」ならないと訴えた。

元来、自由でかつたつな性格の心惠は、東京音楽学校の卒業発表会で「人形の家」のノラを演じて、ノラの人間的自立と勇気にも魅せられていた。

東京音楽学校を卒業して帰国した心恵は、美しい容姿と天性の美声、歌唱力で人々を魅了した。彗星の如く誕生した朝鮮の歌姫として、音楽界での将来を嘱望されていたが、妻子がおり、長男として父からの圧力に打ち勝つことのできなかつた早稲田大学の留学生、金祐鎮との恋愛により、一九二六年八月、祐鎮と共に玄界灘に身を投じて、その人生の幕を閉じた。（女性の歴史研究会 篠宮英美）

[事務局日誌]

7月8日 第1回「らいてうの家」（仮称）プロジェクト会議

第1回理事会開催

7月12日 「らいてうの家」オーブントーク開催
7月24日 記録映画実行委員会に出席

7月24日 第2回「らいてうの家」プロジェクト会議

8月2日 第49回日本母親大会（秋田）全体会に参加

8月3日 同分科会の自主企画「あなたもらいとあなたに」に米田副会長が助言者に

8月22日 第1回事務局会議

8月29日 第3回「らいてうの家」プロジェクト会議

第2回理事会開催

9月5日 記録映画実行委員会に出席

▼記録映画「平塚らいてうの生涯」の自主上映

ファイルム使用料は一回上映二十万円、一日二回上映三十万円（消費税込）、16ミリ版二時間一十分。申し込み・問い合わせは普及センター（03-3445）五八三三、FAX（03-3445）五六一八へ。

▼らいてうの会ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/raichou/>